

エコライフはままつ様

報告者：川崎友紀子（理科教育）  
海外青年協力隊 マラウイ共和国  
派遣期間 2015年10月～2017年9月

川崎友紀子

お礼状と報告  
拝啓

はじめまして、私はマラウイ共和国に派遣されている理科教育隊員の川崎友紀子と  
思います。現在、マラウイ共和国の中部にあるマンガチ県モンキーベイの中にあるモンキー  
ベイ中高等学校で現地の教師同様、物理・化学の教科を担当して理科教育活動を行って  
います。

（マラウイってどんなところ？）

マラウイは世界最貧国認定の常連国である。

・人口:1526万人（→ 東京都の人口+ $\alpha$ と同じくらい）

時差:日本より7時間遅れ。日本が正午ならマラウイは朝の5時！

・面積:118,484平方メートル

（北海道と九州を合わせた面積）。陸地が4/5を占め、湖（マラウイ湖）が1/5を  
占める。（瀬戸内海よりやや広い面積）

・経済・社会:全労働人口の80%以上が農業 関係に従事している。

・言語:公用語は英語。旧英領であり、都市部や主要村町では英語が通じる。



マラウイは Warm of Africa と呼ばれており、暖かい心を持った人が多い。私のマラウイ  
印象は、最貧国と呼ばれているが国であるが、多くのマラウイ人は元気にはつらつと生き  
ている。果たしてこの国は本当に貧しいのであろうか？物はないけど、心は満ちているよ  
うに思う。そして、マラウイの人たちは日本よりも豊かな暮らしをしているのではないだ  
ろうかと感じています。

#### (マラウイと配属先の学校の紹介)

配属先についてですが、私の任地であるモンキーベイは首都リロングウェより南東約235km離れており、車では首都からモンキーベイまでは約3時間で到達します。マラウイのリゾート地と呼ばれるケイプマクレアーが任地から車で1時間のところにあり、街全体としては非常にのんびりしたマラウイ湖沿いの町です。配属先であるモンキーベイ中高等学校は、政府系カトリックの全校生徒約240名(Form 1-4 各60名)、Open schoolと呼ばれる定時制クラスもあり同等数の生徒が午後より学びに来校しています。学校には寮が併設されていないため、生徒は徒歩もしくは自転車で通学しており、自宅が遠方の生徒である片道2時間以上かかる。教師の数は私と校長先生を含めて15人。学校の授業は7時20分から13時50分まで20分休憩を2回、40分授業が9コマ行われている。昼食を食べる休憩はなく学校周辺に売りくる軽食等を生徒は購入して空腹を満たしています。

#### (音楽教室の紹介)

放課後等の時間を活用して、私の配属先の生徒や近隣の学校の生徒に情操教育の一貫として音楽を教えたいと思い、楽器の申請をさせていただきました。先日私の配属先のエリア内で音楽祭が開催され、地域内の小学校3校がエントリーして日本の歌や現地の歌の披露を行いました。早速届いた楽器を用いて、有志の生徒を募り日本の簡単な曲「キラキラ星」や「かっこう」等の演奏練習を短い時間ながらも行き大勢の前で発表することにいたしました。はじめは、音がでるだけでも驚いていた生徒でしたが楽器を使って旋律が奏でられることがわかる徐々に熱心に取り組んでくれるようになりました。

日本では恵まれた環境ゆえに気づきませんでした。一緒に同級生や仲間と目的に向かって取り組むことでより一層絆が深まることを感じました。そして、音楽を通して、マラウイの生徒たちが心豊かな感受性あふれる人間へと育ててほしいなと思っております。

このたびは本当にありがとうございました。

末筆ながら、先生のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

敬具



(演奏中の生徒)